

# 見つけて 考えて 連携する 環境教育の実践

## 東近江市立能登川南小学校

里山での全校活動「猪子山活動」や地域の川「山路川」の水環境学習を中心にして、琵琶湖を大切に作る環境教育を進めている。「見つけて」「考えて」学習したことを生かし、地域や家庭と「連携する」日常実践的なエコ・スクール活動を展開している。

### 1 学校環境

大正2年に創立された本校は、琵琶湖の東、東近江市の能登川地区中心部にある。JR能登川駅から近く、京都や大阪への交通の便もよいため、学区には商店街や住宅地が広がっている。

児童数は685名で、年々増加の傾向にある。

学校から徒歩5分程度のところに、地域の里山である猪子山がある。古墳や遺跡なども近くにあり、歴史学習の素材にも恵まれている。

また湧水が豊富で、比較的きれいな川が近くを流れている。

### 2 実践事例

#### (1) 豊かな実践活動の出発点、身近な里山

##### 「猪子山活動」

能登川南小学校では山を育てることをテーマとし、近くの里山「猪子山」をフィールドに、年2回、全校での環境学習「猪子山活動」を実施している。自分たちで課題を設定し、昆虫などの生き物や木や草花などの植物の調査、古墳や遺跡の歴史学習、クラフトやネイチャーゲームなど多様な活動を行っている。

サワガニ、キクラゲ、クヌギ、オオバヤシヤブシなどの生き物とふれあい、親しむことができるとともに、エコ・スクール支援委員会や地域のボランティア講師、能登川博物館などの支援を得て、専門的なアドバイスをいただいている。

また4年生では、自分たちが見つけた動植物を書籍やインターネットを使ってさらによくわしく調べ、猪子山図鑑を作成した。調べたことやわかったことを掲示物等でまとめたり、発表する活動を通し、生息する多くの動植物を知ること、猪子山への愛着を深めることができた。

さらに、荒廃し、竹やぶと化した山麓を市

内の八日市南高等学校緑地デザイン科やまちづくり協議会、地元自治会等の地域団体と連携し、もとの雑木林にもどす「森林再生プロジェクト」にも取り組んでいる。竹の増殖を防ぐために伐採した竹は、八日市南高等学校緑地デザイン科の学生たちと共に、竹垣を作ったりして有効に使っている。



竹垣作り

#### (2) 美しい川を守りたい「山路川の水質調査」

琵琶湖に面し、湧水が豊富な能登川地区では、特に水環境について関心が高い。本校では琵琶湖を守るため、地域の川の様子を調べる活動を5年生が中心となって行っている。

近くを流れる湧水の豊富な山路川で水環境の調査活動を実施し、魚や水草だけでなく水生生物(指標生物)を調べ、上流から下流へと水の汚れがどうなっているかの調査も行った。

また、透明度調査や(水の澄み具合)やパックテストを使用したCOD調査を行い、上流から下流へと徐々に汚れていく現状を見ながら、その原因を探ってみた。その結果、上流では近年、希少な魚ハリヨやスナヤツメが観察できることもあり、下流でも水質が随分改善されてきていることがわかった。

### (3) 進んで環境を守る実践活動

#### 「エコ・スクールプロジェクト」

教科等の学習で、見つけて、考えて、培った環境を守ろうとする子どもたちの思いを、日常的な実践活動に結びつけるのが「エコ・スクールプロジェクト」である。本校がこのプロジェクトに参加して9年目となる。

このプロジェクトは、子どもたちのエコ・スクール委員会が中心となり、自主的に環境を守る活動を展開する。「緑を育て、川を守り、地球にやさしくしよう」というキャッチフレーズのもと、持続可能な未来社会を創造するための基礎として、多様な活動を展開してきた。

本校では、エコ・スクール委員会の児童が水・電気・ごみの3グループにわかれ、省エネや省資源の活動を中心に、全校に呼びかけている。

**水グループ**は、ポスター等を作成し節水を呼びかけている。子どもたちの雨水のバケツ実験がきっかけで、エコ・スクール支援委員会の方々に雨水タンクを作成してもらった。また、豊富な地下水を生かして手押しポンプも設置し、花の水やりに役立てている。水の使用量は大きく節約できた。

**電気グループ**は、節電シール貼付、電気チェックなどを行った。太陽光パネルと自転車発電機でつくった電気を蓄電する活動に取り組み、電気は簡単につくれないことも活動から学んだ。



自転車発電の取り組み

**ごみグループ**は、「ストックハウス」でゴミを計量し、ゴミ箱点検、インクカートリッジ回収、川のそうじ、リサイクルコーナー設置等の活動を実施している。それぞれ数値化し、これまでの取組で削減の成果を上げてきた。PDCAサイクルを重視し、活動の発展につ

なげている。川のごみが多いので、全校に呼びかけて川掃除を実施した。

夏には暑さに対応するため、新校舎にゴーヤで緑のカーテンを育てた。夏休みには、これまでと同じようにエコ生活に取り組んでもらうよう、1学期終業式に全校児童に呼びかけた。特に今年度は、全国的に節電が呼びかけられていたので、節電を中心に呼びかけを行った。児童の取組は、家族を巻き込み、そして地域を巻き込み、全体でエコ活動に取り組む気運を高めることにつながった。

さらに代表児童が「湖国環境フェスタ」で発表の機会を与えていただいた。発表や交流を通して、堂々と自分たちの取組や考えを発言し、大きな成長が見られた。

### (4) 地域で支えるエコ・スクール支援委員会

このように充実した環境学習ができるのも、地域との連携が密だからこそである。

特にエコ・スクール支援委員会は連携の中核となる地域団体である。地域の有識者や行政の方々、PTA代表等で組織し、支援やアドバイスをいただいている。

今年も、年2回の定例会のほかに、猪子山活動等の指導など支援していただいた。能登川博物館の学芸員の方は、子どもたちと一緒に川に入り、生物の集め方や名称など専門家としての知識を子どもたちに伝授していただいた。地域教育協議会と猪子山の竹を使った竹細工づくりなど広く地域連携をすることにより、活動が深化し、活性化されている。

### 3 今後の課題

エコ・スクール活動が、学校から各家庭まで浸透し、地域ぐるみの活動になってきている。

今後は、「一人の百歩より百人の一步」をめざし、エコ・スクール委員だけでなく、全校児童が同じエコ意識をもって学校生活を送るように働きかけていきたい。

児童、保護者だけでなく、地域住民の意識も高まってきたように感じる。今後も学校が環境教育やエコ活動の核となり、連携し、協働した活動を継続して進められるようにしていきたい。

学校名	東近江市立能登川南小学校
住所	東近江市猪子町12
電話番号	0748-42-0148
E-mail	notminamisho@higashiomi.ed.jp